

第9回奈良 ESD 連続セミナー概要報告

- ◇開催時期 平成 29 年 12 月 7 日(木)
- ◇会場 次世代教員養成センター2号館多目的ホール
- ◇参加者 池見・大西・圓山・阿彌(飛鳥小)、新宮(平城小)、池見(大宮小)、河野(附属小)、三木(都跡小)、中澤(平群北小)、島(郡山西小)、蔵前(真美ヶ丘第一小)、中澤(きんき環境館)。北村(御所市教育委員)、池上、春日、森本、口脇、谷垣(奈良教育大)
計 18 名
- ◇内容 指導案の検討
- 1、「都跡今昔マップ(仮)」 奈良市立都跡小学校 三木恵介先生

- 校区内
 - ・薬師寺・唐招提寺・平城宮跡(共に世界遺産)が存在
 - ・上記以外の地域遺産(以後 都跡遺産)があまり知られていない。
 - ・約 100 年前の地図と現在の様子を見比べてみると、同じ場所に存在する建物(社寺)が 10 か所あることが分かった。
- 児童自ら発見した都跡遺産に関わる人と出会い、その歴史や行事などを理解する。
- 遺産に関わる人の思いに触れることを通して①都跡遺産の共通点②都跡遺産と世界遺産の共通点・相違点について考える。
- それらを通して、地域遺産の持続性と「都跡遺産」のために何ができるかを考える。

- ・氏子さんの話⇒氏子がいなくなれば神社も消える。神社は集落のもの(旧村)周りから祭りには来てもらってもよいが、新住民は氏子になれない。自分たちのものは自分たちで守る。
- ・今までは、世界遺産・地域遺産は守っていかなければならないというイメージであったが氏子さんの話を聞いて着地点が少しわからなくなった。
- ・氏子の家は江戸時代から続いている。地域のものを守ってきたいという世界遺産との共通点もある。
- ・子どもたち自身が神社を残すべきかどうかを他の社寺の様子を聞いて考えさせることが大切ではないだろうか。
- ・集落が消えたら更地にするという氏子さんの話も合った。
- ・この地にむかし他から移住してきたので、移住先の神に我々を守ってもらうために祭っている。氏子がいなくなったら、守ってもらうものがなくなるだけである。
- ・残すためにどうするかではなく、子どもたちがどうしたらよいのかを考える教材としたらどうだろうか。
- ・子どもたちがどうすればよいか判断できる活動を進めたらどうだろうか。
- ・氏子さんの話から、当たり前のように思っておられる思いを学んだので、子どもたちが、当たり前前のように都跡遺産を守るためにこのようにしていきたいという態度を学ぶ教材としてはどうだろうか。
- ・神様は前からその場所に居られるので、神社を残す残さないというのは人間世界の思惑で動いているのではないだろうか。
- ・その地域の神様が守る人は氏子だけではなく、新しく入ってきた人も該当するのではないか。



- ・氏子さんの姿に学んではどうだろうか。当たり前のように守るといわれているので、子ども一人一人に守りたいのではないのだろうかと問いかけてはどうだろうか。氏子さんは神社、僕は〇〇
- ・子どもたちも都跡の中にある守るべきものを探してみてもうだろうか。

2、「これからの食糧生産と私たち」ー生産者も私たちも、そして地球も豊かになるためにー
奈良市立飛鳥小学校 大西浩明先生

視点⇒生産者にとっての豊かさ→食料を生産することが十分な生業として成立していること。

消費者にとっての豊かさ→様々な食品がいつもあり余るほど手に入ることなのかどうかを考えさせたい。

の人々を守ることに繋がる。

取り上げる事例

世界農業遺産の 「トキと共生する佐渡の里山」・「阿蘇の草原の維持と持続的農業」

Globally Important Agricultural Heritage Systemst (GIAHS ジアス)

- 食料を作って豊かに暮らしていけること
- 生物多様性、自然の恵みを生かした仕組みになっていること
- そこに生きている人の知恵や習慣が生かされていること
- 農業に関する行事や祭り、約束事が続いていること
- すぐれた景観を作っている、土地や水がきちんと管理されていること

- ・佐渡のトキの事例でも十分だと思う。
- ・阿蘇の事例を挙げたのは、思考の画一化を考えてほしいと思い取り上げた。
- ・佐渡では、対物多様性、阿蘇では自然のサイクルの大切さを感じ取ってもらいたい。
- ・広げるの場面で、日本産を買ったらどうなるのか。
子どもの目指すところは、こんなことをしたら良いという意識が芽生えくれたらよい。生活場面で、行き当たった時に考えてくれるようになれば良い。
- ・ジアスの「守る」と「発展」は相反するものではないだろうか。
- ・社会、経済、環境はwin winの関係になるのだろうか。
- ・昔から伝えられてきた技術も大切ではあるが、今の技術(機械)を使って置き換えることは「発展」といえるのではないだろうか。
- ・社会、経済、環境のバランスを壊さず、生産者が豊かになることが大切である。
- ・広げるの段階で、子どもの意見が箇条書きになっているが図式でつながりが見えたらよいのではないか。
- ・調べるの段階の内容が充実しているので、この時間でできるのだろうか。



- ・今回は2時間しかとっていなかったのですが、教師から資料を提示し「何がわかるのか」という資料活用を中心として行った。
- ・6次産業はよいものと思っていたが、生産者の本音からはよいとは言いきれない。
- ・農家の人の本音を引き出すためにどう持って行ったのか。
- ・農家の人(生産者)の一番うれしいことは何だろうか。それは、みんなではないが、儲かること、おいしいと喜んでもらうことである。
- ・6次産業も本来の仕事ではないが、せざるを得ない。しなければ生き残れないという思いがある。



※ 次回は平成30年1月5日(金) 17時から 次世代教員センター2号館多目的ホールにて6人の先生方の指導案検討を行います。出来上がった先生は、中澤先生までメールで送ってください。

・
・
・

・